

「インクルーシブな学校運営」 通信 第8号

カリキュラム・マネージャー

中高養生徒会が模擬店についてオンラインで質問

10月9日（木）、中高養生徒会役員が更農の教員から、学校祭の模擬店出店について具体的な配慮事項を聞きました。

中高養では学校祭の新たな取組として模擬店を計画していますが、既に同様の取組を行っている更農から、実際の様子を教えてもらおうと実施したものです。

オンラインによる40分ほどのやりとりでしたが、模擬店はもとより前日祭や球技大会、役員選挙などに関しても幅広く更農の様子を知ることができました。

最後に、代表の生徒から「学校祭で食品を扱うのは初めてで、わからないことだらけだったので、とてもたくさんヒントをいただきました。聞いたことを参考に学校祭を盛り上げたいと思います。」と感謝の言葉が述べられました。



質問の内容（一部）

- 調理はどのように
- 金額の設定はどのように
- 販売数の決め方は
- ゴミの分別や処理は
- 残飯の処理の方法は
- クレームの対応は

更農Coが参加して中高養校内研修会

10月22日（水）、自立活動や「協働的な学び」を研究テーマに掲げて校内研究を行っている中高養で、昨年と今年の「オンライン共同学習」の実践記録を基に研修会が行われました。

冒頭研究部長から、研修会の趣旨について「研究テーマに迫るための研修の一環」との説明があった後、カリキュラム・マネージャーが進行する形で進められました。

研修会にはMTを務めた更農 Co も参加し、授業の趣旨や教科・科目「カルチベーション」の教育課程上の位置付けなどについて説明してもらいました。後半の協議では「交流および共同学習」における「協働的な学び」などについて質疑や情報交換が行われました。

また、中高養 Co からは熱心に参加する中高養生徒の様子や、令和8年度の推進計画についても説明があり、「オンライン共同学習」の現状や来年度の見通しについても共有することができました。

令和8年度の見通し（中高養）

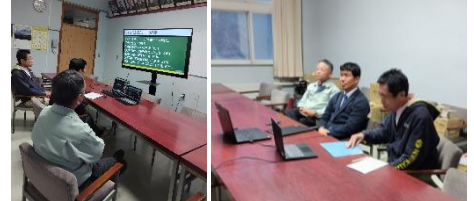
- 1 対象者
 - 1 学年希望者
 - 2、3 学年も生徒・担任の意向により参加可能
- 2 指導者
 - MT 更農
 - ST 中高養2名（Co 又は1学年教諭）
- 3 実施の流れ
 - （6月）説明会・参加意向調査
 - （7月）参加生徒決定、第1回授業、振り返り
 - （10月）第2回授業、振り返り
 - （12月）第3回授業、振り返り

学力差への対応をテーマに第4回「共に学ぶ会」

10月23日（木）、「学力差に対応するための授業の工夫」をテーマに「共に学ぶ会」を実施しました。これまでは中高養 Co がファシリテータを務めていましたが、今回は更農 Co が担当しました。

更農からは、教育課程上の工夫として設置している学校設定教科・科目「カルチベーション」（1学年必修、3学年選択）や、数学科での取組について説明を受けました。

数学の指導にかかわり、「生徒の実態に合った教材をどのように見つけているか」、「テストで配慮していることは」などの質問を通して、学力差を考慮した実際の取組を知ることができました。



取組を説明する更農の先生方

SNSでの誹謗中傷問題を題材に「オンライン共同学習」

10月24日（金）、本年度2回目の「オンライン共同学習」が実施されました。

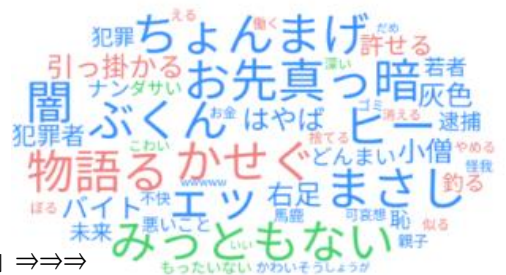
更農は学校設定教科・科目「カルチベーション」、中高養は「体力づくり」における自立活動の指導と位置付け、MTは教科担当でもある更農 Co、STは中高養 Co と第1学年所属の教員が務めました。

《学級》 第1学年（更農 A 組、中高養 9 名）
《題材》 みんなで考える SST “SNS の危険”
《目標》

- いつ自分が被害者や加害者になるか分からないことを自覚できる。《知識・理解》
- SNS の誹謗中傷を減らすために、どうしたらよいか考えることができる。《思考・判断・表現》
- 自分の考えを書いたり、発表したりして取り組むことができる。《学びに向かう力》

授業は SNS での誹謗中傷の問題を授業課題として取り上げ、google フォームで模擬的な「書き込み」を行い、その具体的な内容や全体的な傾向を把握し課題解決を図るという展開で、現実感のある学習となりました。

※ テキストマイニングで処理された「闇バイト」に関する「書き込み」⇒⇒⇒



実際の映像で誹謗中傷の事例を確認しました。（中高養側）

「書き込み」で使われた言葉の傾向を把握しました。（更農側）

誹謗中傷を防ぐ手立てをグループで交流しました。（中高養側）

互いの発表には拍手で共感の気持ちを伝えました。（更農側）